

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス 暖母		
○保護者評価実施期間	R8年 1月 17日		R8年 2月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24 (回答者数)	21
○従業者評価実施期間	R8年 2月 10日		R7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9 (回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 13日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小さな成功の積み重ねを大切にし、手順化・声かけ・振り返りで「できた」を増やす支援	課題は「できる形」に分け、手順提示→実施→できた点のフィードバックを統一して、成功体験が残る関わりを行っている。	「成功体験の積み方」をより再現性高くするため、支援の手順（提示の仕方・声かけ・振り返り）を整理し、職員間で共有できる形に整える。
2	5領域に基づき、視覚支援+環境調整（構造化）で見通しを持って参加できる仕組み	スケジュール・手順カード等の視覚支援を用い、活動を小集団で設定/席配置・動線調整など環境面の工夫で見通しと安心感を支えている。	環境調整の意図（なぜ構造化するか/どんな効果があるか）を保護者へも分かりやすく伝え、家庭でも活かしやすい工夫として共有を強める。
3	就労を見据えた経験（就労事業所見学・作業体験等）を計画的に取り入れている	就労見学ツアーや体験機会を年間計画に組み込み、保護者にも目的・内容を共有しながら、無理のない参加形態で経験を積めるようにしている。	就労の取組は、見学・体験の“点”で終わらせず、事前の見通しづくり→当日の参加→事後の振り返りまでを一連で行い、卒業後の移行につながる形で継続する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設がビル内の限られたスペースのため、活動内容や人数によっては空間の確保が難しい場面がある。	建物の構造上、部屋の拡張やバリアフリー化など物理的な改善に限界がある。	空間制約を前提に、グループ分け・時間差活動・レイアウト/動線の見直しを継続し、活動のしやすさと安全性を高める。
2	情報発信がInstagram中心で、SNSを利用されない家庭には必要な情報が届きにくい。	発信手段がSNSに偏ると、受け取り方（利用の有無）に差が出て、情報格差が生じやすい。	SNS以外にも、通信（紙面）・配布資料・面談時の再周知を組み合わせ、誰でも同じ情報にアクセスできる形を継続する。
3			